

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkou@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkou



リア充：「虚」と「実」を繋ぐ

氷見市小学校教育研究会 会長

氷見市立海峰小学校 校長 松下 稔

皆さんは、「リア充」という言葉をご存じでしょうか。若い世代の皆さんにとっては聞き慣れた言葉だと思えますが、私と同世代の皆さんの中には初めて聞いたという方もいらっしゃるのではないかと思います。数年前からネットで使われるようになった俗語で、意味を調べてみると次のように書いてあります。

リア充（りあじゅう）

《「リアル(現実の生活)が充実している」の略》
 ブログや SNS などを通じた関係ではなく、**実社会**における人間関係や趣味活動を楽しんでいること。または、そのような人。

＝デジタル大辞泉＝

この言葉が、頻繁に使われるようになった背景には、SNSやゲームというネット上の「仮想」や「虚構」の関係や世界に浸り、快適なネット生活をしている「ネット住民」と呼ばれる人たちの「リア充」にたいする嫉妬や羨望があります。「ネット住民」の心奥には、自分たちのネットに依存した「虚構」の生活には満足できず、仕事にやりがいを持ち生き生きと働き、家族や友人、恋人等と豊かな人間関係を築きたいという充実した「現実」への強い渴望があるのだと思います。そして、このことは「現実」の世界で命ある生き物として生活をしている人間にとり、当然の帰結であると感じます。

また、最近よく見聞きするようになったのが「VR（バーチャルリアリティ）」です。日本語では「仮想現実」と訳され、特殊なゴーグルを付け、その中に展開される「仮想」や「虚構」の世界でゲームを楽しむ様子をテレビ等でよく見るようになりました。「VR」は、ゲームだけではなく自動車やファッション、不動産等の販売促進に利用されており、今後は医療やスポーツ等でのトレーニングへの活用が予定されているそうです。10年後には、学校で「VR」を利用した授業が、当たり前に行われているかもしれません。

「Aさんは、絵を描くのが得意だと言っていたのに、今日の図工の時間は怒っていて、絵を描いてくれませんでした。家のタブレットでやっているお絵かきのようによく線を引いたり、色を塗ったりできないから、やりたくないそうです。」これは、ある学校で聞いた話です。

ICTの急速な進歩と普及は、私たちの生活を大きく変え、ICTは無くしてはならないものになっています。学校でも、本市のようにタブレット端末が整備され、ICTを活用した授業が当たり前に行われるようになってきました。その結果、これまではできなかった授業や学習、支援が手軽に行えるようになってきました。また、ICTを使うことで特別な支援を必要とする子供が才能を発揮し、可能性を伸ばすこともできます。

一方で、紹介したA児のようにICTを使えばできるが、「現実」の授業や生活ではできないことへのギャップを感じる子供や大人もいます。現在のICTを使った授業は、教師の教材提示や子供の操作場面等で「現実」では難しいことをICTで可能にするという授業が多いのではないのでしょうか。ICTを使った授業が一般的になってきたからこそ、現状の授業に満足せず、「子供がICTのできるようになったことや身に付けた力を現実の学習や生活の中にどのように生かし、伸ばしていくのかを考えた授業」や「ICTが何かの補助や代用ではなく、ICTの特性を積極的に活用した子供が主体的に学ぶ授業」等、もっと広く大きな視点からICTの活用を考えた授業を模索して行ってほしいと思います。子供の現状と未来をしっかりと見据えてICTを活用した授業づくりをしていくことは、教師の教材研究や子供を理解する力を高めるだけではなく、子供の「現実」を生きる力を伸ばすことに繋がると考えます。

ICTがもつ「虚」の側面を子供と教師の「実」にしっかりと繋ぐことが、学校におけるICT活用の「リア充」だと考えます。

小中連携教育推進委員会

氷見型ふるさと学習のすすめ

十三中学校 校長 光安 淳子

小中連携教育推進委員会では、小中学校が連携してふるさと学習を推進するために、次のことに取り組みました。

1 氷見型ふるさと学習：小中連携モデルプランの作成

これまで、総合的な学習の時間を中心に、各学校の実態に応じた特色あるふるさと学習が実践されてきました。この取組を、小中連携という視点から捉え直し、中学校区毎に小中連携モデルプランとして整理しました。

2 ふるさと学習推進リーフレットの作成

第2期氷見市教育振興基本計画の基本理念「ふるさと氷見を愛し 次代を担う人づくり」のもと、リーフレット「氷見型ふるさと学習のすすめ」を作成しました。地域の人々と関わり、地域の魅力に触れ、地域との絆を感じた時、地域の一員としての自覚が高まると思います。このことが、氷見を誇りに思う人づくりにつながると考えます。「小中連携9年間による学びの深化」「教科等横断的な視点で実践」をポイントに、実践事例を紹介します。



ICT教育推進委員会

学力向上のためのICTの効果的な活用

西條中学校 校長 久保村 裕

ICT教育推進委員会では、学力向上のために、ICTの効果的な活用について、研究を行いました。

1 ICT活用推進リーフレット「学力向上のためのICT活用」の作成と配布

確かな学力を育成するためには、学習スタイル「学習課題をつかむ（つかむ）→ 見通しをもって学習課題に取り組む（考える）→ 学習したことをまとめる授業（まとめる）」の確立とICTの効果的な活用の推進が大切であると考えました。そこで、授業の流れとICTの効果的な活用例の関連がわかるようにリーフレットを作成しました。このリーフレットを参考に、授業の中で積極的にICTを活用していただければと思います。

2 学力向上のためのICTの効果的な活用についての研修

「氷見の教師未来塾」事業として、兵庫県淡路市と東京都新宿区のICT教育の取組を視察したり、ICT教育推進協力校の西條中学校、窪小学校、宮田小学校での「ICTを活用した授業づくり研修会」に参加したりして研究を進めてきました。今後、ICTが学力向上のための手段として、どの学校でも気軽に活用できるような提案をしていきたいと思っています。



外国語教育推進委員会

自信をもって外国語活動に取り組むために

朝日丘小学校 校長 扇谷 孝代

外国語教育推進委員会では、外国語活動の円滑な実施に向けて、次のことに取り組みました。

1 外国語活動 氷見市版 年間指導計画・単元計画（移行期間用）の作成

「ふるさと教材」の活用、「小中連携」、「ALTによる異文化理解」や「QAタイム」の場面設定等を盛り込んだ、平成31年度指導計画を作成しました。

2 ふるさと教材「We Love HIMI！」の作成

「ふるさと氷見市について考え、ふるさとのよさを発信しよう！」のテーマの下、英語を使って積極的にコミュニケーションを図り、様々な相手と温かい人間関係を築くとともに、自分やふるさとに誇りを持ち、自信をもって思いや考えを伝え合う資質や能力を育てることを目指して作成しました。



<「We Love HIMI！」より>

平成 30 年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部 11 編、中学校の部 5 編の個人やグループからの応募がありました。小中学校長会の協力を得て、小学校の部と中学校の部に分けて審査しました。広い視野で適正かつ公正な審査を行い、最優秀賞、優秀賞が選出されました。

審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

〈小学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	比美乃江小学校	西川 果穂	多様な見方・考え方を互いに認め合い、よりよい学級を目指す子供の育成
優秀賞	速川小学校	学力向上研修部会	自ら課題を見付け、学び続ける子供の育成
優秀賞	灘浦小学校	前澤 稜	友達大好き！灘浦大好き！思いや願いをもって探究する子供の育成を目指して
優良賞	朝日丘小学校	藤坂 賢良	積極的にコミュニケーションをしようとする子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	二口 美穂	書くことを楽しみ、意欲的に書こうとする子供の育成
優良賞	窪小学校	前田 翔太	主体的に課題解決に取り組む子供の育成を目指して
優良賞	湖南小学校	出口 智絵	身の周りの自然を大切に、主体的・協働的に学ぶ子供の育成
優良賞	十二町小学校	矢後 祐樹	対話を通して表現する楽しさを実感する A 児を目指して
優良賞	上庄小学校	渡部 裕文	見通しをもち、主体的に学ぶ楽しさを実感する児童の育成
優良賞	明和小学校	蔵田 修治	根拠を明確にして表現し、関わり合いながら、意欲的に学ぶ子供
優良賞	海峰小学校	宮田 拓実	仲間と共に学び合う子供の育成を目指して

〈中学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	西條中学校	三崎 篤志	知識や経験を結び付けて考え、表現できる生徒の育成
優良賞	南部中学校	番匠 理美	学びを実感し、活用するための指導はどうあればよいか
優良賞	北部中学校	研究推進部	自ら考え、主体的に学習に取り組む生徒の育成
優良賞	西部中学校	間嶋 祐未	生徒が主体的・対話的で深い学びにいたる音楽科授業を目指して
優良賞	十三中学校	寺西 良太	音楽の質的高まりを実感できる合唱指導の在り方について



[実践発表の様子]

以上の審査結果を基に、去る 2 月 13 日（水）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。鎌仲教育長からの授賞後、西部教育事務所主任指導主事 犀川敏朗先生より講評をいただきました。最後に、最優秀賞受賞者の比美乃江小学校 西川果穂教諭と、西條中学校 三崎篤志教諭から教育実践についての発表がありました。詳細については当センター発行の「平成 30 年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

新規採用教員 - 1年を振り返って -



笑顔と言葉で温かい学級を

比美乃江小学校 河 彩央里

「教師は学級の空気清浄機だ」とお世話になった先生に教えられ、常に笑顔でいることを心がけてきた。しかし、つい注意が重なり、私の笑顔が減ると、クラスの雰囲気は重くなる。「先生の笑った顔、久しぶり！」と言われた時には、子供は私の表情を敏感に感じ取っているのだと改めて気付かされた。これからも笑顔を忘れず、一人一人を思いやる言葉かけによって、クラスに温かな雰囲気をつくり出していきたい。



1年を振り返って

湖南小学校 野崎 悦之

初めて勤務する氷見という土地、初めて会う人たちで戸惑うことが多くあった。しかし、先生方や保護者の方、地域の皆さんの協力を得て、湖南小学校の子供たちと日々の学校生活を楽しく過ごすことができた。毎日、自分を振り返り、自分を高めていながら、子供たちのよりよい成長につながるようこれからも一層努力していきたい。



子どもたちの笑顔に囲まれて

十二町小学校 杉山 美紗

「先生、こんな大きな葉っぱ見付けたよ」「先生、早く続き読んで」「先生、先生」…。子供たちの笑顔に後押しされ夢中で過ごした1年間は、様々な活動に取り組んだ充実した時間だった。朝活動での絵本の読み聞かせ、帰りの会のジャンケン大会等。満面の笑顔で「先生、あのね」と慕ってくれる子供たちが、私を「先生」にしてくれる。子供たちの笑顔のため、「先生2年生」に向けて努力し続けたい。



「笑顔いっぱい」

明和小学校 大西 由夏

学級目標は「みんなが笑顔いっぱい2年生」だ。子供たちが楽しいと感じる授業にしたいと、忍者になりきって動きをつくる体育の授業に取り組んだ。休み時間には、子供と一緒になわとび対決や、ダンスを楽しんだ。これらの時間の中で、たくさんの子供たちの笑顔を見ることができた。これからも、笑顔いっぱいの学級を目指し、楽しい授業づくりや子供との信頼関係づくりに努めていきたい。



子供たちと共に

灘浦小学校 小久保 亮祐

4月から3年生の担任になって1年が経った。私はこの1年間、子供たちとの関わりを大切にしてきた。授業中はもちろん休み時間等も、子供と一緒に様々な活動を楽しんだ。多くの時間を共に過ごしたが、子供たちの笑顔を見るのが何より嬉しく、ずっとこの笑顔を守っていきたく強く思った。

これからも子供たちが笑顔で成長できるように、自分自身も子供たちと共に学び、自己研鑽に努めていきたい。



学級担任としての喜びと責任

北部中学校 中村 祐太

4月に2年生の担任となり、もうすぐ1年を終えようとしている。この1年、生徒に向き合い続けることの大変さや、責任の大きさを強く感じながら毎日を過ごしてきた。そんな中で、うれしく感じることは、生徒の成長を1番身近で感じることができる存在であったことだ。最高学年に向けて大きく飛躍しようとしている生徒たちの担任として、今後も努力し、教師として成長を続けていきたい。